

2024 年第 1 回定例会

災害時にも使用できる「自己処理型水洗トイレ」の設置を 検討することを求める陳情 採択討論

生活者ネットワークは、陳情第 21 号 災害時にも使用できる「自己処理型水洗トイレ」の設置を検討することを求める陳情に対し採択を求めます。

総務委員会でも申し上げましたが、能登半島地震では断水が長引き、トイレの問題が深刻な状況となっています。こういった災害時のトイレ問題は今回に始まったことではなく、私自身も経験した阪神・淡路大震災の際にも断水した地域は非常に大変な状況になりました。

一たび首都直下型地震が起きれば、これまでのどの地震の際の混乱も超える事態になることが容易に想像されます。経験を経るごとに、災害時用のトイレの選択肢も充実してきていますが、断水が起きた場合は特に、トイレは待ったなしの問題として対応が必要になります。

陳情者は、こうした際の活用を考え、自己処理型水洗トイレを多数の住民が交流する地域の公共空間に設置することを検討するよう求めています。

現在まだ取り扱っている企業も 1 つ、商品も 1 つしかないようですけれども、注目を集めており、今後同様の商品が増えてくる可能性もあります。一見しましたところ、高齢者や障害のある方も通常のトイレと同様に使っていただけるのではないかと考えています。

もちろん、このトイレが全てを解決するわけではありませんが、あらゆる状況を想定し、例えば、今後、四中・若葉やグリーンホールなど、施設を新しく建てる場合、更新する際や、公園のトイレを新しくする際には、能登半島地震の今回のことを教訓に、選択肢の 1 つとして自己処理型水洗トイレの設置を検討していただきたいと希望することから、本陳情の採択を求めるものです。

以上です。